

8 SHIP (Social Hub Information Partners)

職員総括

今年度においても、在学生在が充実した学生生活を送れるよう支援するために、全力で取り組んだことを評価したい。

入学時から学生生活に希望をもってもらうことを目的に、ボランティア活動などで活躍する上級生を紹介する企画を4月に実施した。また、学生生活が残り少ない上級生に対して、大学卒業前の短い期間でも何か行動を起こすきっかけを提供することを目的に、OBを講師に招き講座を実施した。この講座は、「SIA (Social Innovation Academy)」と称した企画で、社会と学生がつながるきっかけとなる講演会やワークショップを行うもので、今回は8回目の企画であった。回を重ねるごとに、企画の質や段取りが向上しており、今回も参加者の満足度が非常に高い企画となった。

SHIPは、残念ながらメンバー減少のため、今年度で活動を休止する。色々と制約があるなか、常に前向きに活動し、多くの学生の支援を行ってきたこのセクションの活動がなくなることは非常に残念である。この活動を通して成長したメンバーたちの各方面での今後の活躍に期待したい。(職員 松本剛)

●2017年度「SHIP」の主な活動

日にち	内容(参加人数)
4/5(水)～4/6(木)	i switch!! vol.4「新入生、俺の話を聞いてくれ」 (登壇者6名、参加者4/5:14名、4/6:15～20名)
12/1(金)	SIA vol.8「明学OBによる行動力講座 ～やりたいことを実現するきっかけを提供します～」(13名)

◇i switch!! vol.4「新入生、俺の話を聞いてくれ」

目的	新入生勧誘期間に在学生在が大学生活をプレゼンすることで、自身の活動を発信すると同時に新入生にロールモデルを提示する
日時、場所	2017年4月5日(水) 12:00～12:30、4月6日(木) 12:30～13:00 横浜キャンパスボランティアセンター前
参加人数	登壇者6名、参加者4/5:14名、4/6:15～20名

実施概要

現在、明治学院大学にはアクティブな学生が多いにも関わらず、その活動を直接伝えていく場があまり存在しないのでは、と考えた私たちは、プレゼンテーションを通して、学生が自身の活動や考えを伝える場を提供し、社会に自分の考えを「発信する」イベントを企画した。

そこで、4月上旬の新入生勧誘期間に、ボランティアセンター前の屋外スペースにて、「i switch!!」を開催した。新入生もどのように大学生活を送るのかを模索している期間内にイベントを開催することによって、より届けられる情報の価値が上がると同時に、新入生の背中を押すこともできると考えた。

感想・活動を通して得た学び

今回4回目となる本イベントは、初めての試みとして屋外で実施した。その結果、多くの学びがあっ

た。一つは、声かけによる集客である。今回、事前に参加者を募集するのではなく、道行く新入生に向けてゲリラ的に行った。そのため、どれだけの新入生がみてくれるか、どう声をかけたら足を止めてくれるかなど、事前に多くの想定が必要であることがわかった。今後このようなイベントを行う際には、新入生に対してより効果的に届けるために工夫する必要がある。

今後に向けて

今回は、新入生や登壇者、運営の在校生など、さまざまな学生が携わったイベントである。そのぶん、多くの人を巻き込むことの大変さややりがいを感じた。この経験は、今後のイベント実施の際に役立てていきたい。現在、学内では、さまざまな活動をしているアクティブな学生が自身の活動を発信する場がまだまだ少ないと考える。彼らが大学内で在校生に向けて発信することにより、社会とつながる学生が増え、より明治学院大学が活性化されるであろう。本イベントがその先駆けになっていたら幸いである。

(学生メンバー 法学部政治学科)

◇SIA vol.8

「明学 OB による行動力講座～やりたいことを実現するきっかけを提供します～」

目的	行動したいけれど行動できなかった人の背中を押す
日時、場所	2017年12月1日(金) 18:30~20:30、白金キャンパス 1251 教室
参加人数	13名

実施概要

大学に入学して、何か動きだしたいという気持ちはあったが、実際行動できなかった大学3年生は多いだろう。ちょうど大学卒業までの今の時期、彼らは、大学生活を振り返って話せるようなことを何もしてこなかったことに対し、焦りを感じていると考えられる。そこでそのような学生に対し、明学 OB がどのような学生生活を送り、その後どんなキャリアを進んだのかを講演する。講演後には、PDCA (Plan Do Check Act) のPを立てるワークショップを行い、実際に学生が行動するきっかけを提供した。

感想・活動を通して得た学び

今回のイベントでは特にワークショップの時間、参加者が積極的に取り組んでいたため、充実したイベントとなった。参加者からも、イベントで学んだことが多いとの声をいただいた。今回は、イベントの広報・集客期間が今までで一番短かった。短期間で集客することの大変さを痛感したと同時に、時間がないからこそ頭を使い工夫した面が多々あった。特に学んだことは、イベントにおけるターゲット層の設定に関してである。当初予定していたターゲット層に広報が刺さらず、逆にリーダー経験がある層の参加が多くなった。このことから、企画段階でさまざまな場合を想定することの重要性を学んだ。

今後に向けて

今回、イベントの企画・運営を通して、人と協働でイベントを作りあげることにおいて、多くの大事なことを学んだ。特に、人との協働において、運営メンバーや登壇者、参加者など相手の視点に立って考えることの重要性を改めて考えさせられた。想像以上に多くのことを学んだこの経験は、次回に活かしていくために、メンバー内でしっかりフィードバックをした。このことを次回に活かして、メンバー全員が成長していくことが重要だと考える。

(学生メンバー 法学部政治学科)